

加藤恭子ゼミナール 登竜門企画

～ 20歳の頃～

WORK for WORK

日本通運株式会社
執行役員常務取締役札幌支店長 山下義憲氏

A班 岩男、後藤、平林

In 菅平研修所 2008年3月28日

1. はじめに

私たちはこの企画を課され、どうせやるなら大手企業の方にお話を伺いたいと考え、多くの企業にインタビューのお願いをしたが、なかなか時間を割いてもらえる企業がないなかで、日本通運株式会社の執行役員常務取締役札幌支店長である山下義憲氏に快く承諾をいただき、お話を伺いました。

日本通運株式会社とは、「ペリカン便」などで有名な企業です。この方にお話を伺った理由は大手企業の役員として、多くの社員を率いている立場の方が、学生時代にどのような経験をして、会社に入り、どのような努力により、経営者としてのノウハウを手にしたかを学びたいと思ったからです。

2. インタビュー内容

多くの質問に快く答えていただいた中で、特に私たちが特に興味をもった内容を抜粋しました。

・ 学生時代の生活について

→学生時代は学生運動の影響もあり、勉強はほとんどしませんでした。一方で、学生保険組合の支援活動を行っていました。時間に余裕のあった時期には、旅行によく出掛けたり、マージャン三昧の生活を送っていたりしました。また、バイトは家庭教師とデパートの配送業務をしていました。

・ 大学での生活が今にどうかされているか

→商学部3年ではじめた、ゼミでは物流関係を研究しました。その後、ゼミの先生の紹介もあり、日本通運に入社しました。地方出身の友人とは今でもつながっていて、情報共有になっているそうです。

- ・ 僕らはどのような学生生活を過ごすべきか
→連続した休みがあるのは学生のうちだけだから、いい意味で時間を無駄に遣い、友人との協調性などを養い、とにかく友人との繋がりを大事にするべきだとおっしゃっていました。
- ・ 仕事上のモットーはあるか
→『一生懸命やる！！』と『努力すること！！』の2つを強調してお話していました。
- ・ 何が原動力になっているか
→家族を犠牲にしつつも、今の仕事をもっとうまく進めたいという積極的な仕事への強い思い、また、もちろん趣味や家族を養うためという使命感も原動力となっているそうです。現在は睡眠、お酒が原動力になっているとおっしゃっていました。
- ・ 経営者たる者の理想像とは
→会社は30年で潰れるという話があるように、まずは継続させる力をもっていることが必要とされます。その中で、拡大させ、かつ安定させる能力を備えている人物が理想だと考えられるとおっしゃっていました。他にも必要な要素として、公平であり、従業員に目配りできるということを挙げていました。
- ・ 常務になってはじめて分かることとは
→会社全体を考えるようになったそうです。それに附随して、責任感がさらに強くなり、上の立場にいくにつれて、代表としての意見が言えるようになったとおっしゃっていました。

3. 最後に

お忙しい中、私たちのインタビューを快く承諾していただき、多くの話を分かりやすく、真剣に答えていただいた山下義憲氏に心から感謝したいと思います。このインタビューの中で、計画性の大切さ、企業などの上部にいる人にお話を聞くことの有益さ、向上心の大切さ、そして達成感とグループ活動の難しさについて学ぶことができました。私たちはこの経験と山下氏の言葉を参考にして、これからもこの加藤ゼミを盛り上げ、一生懸命に努力していきたいと思います。